エコアクション21　環境経営レポート

期間　　2022年8月1日～2023年7月31日

発行日 2023年 11月1日

株式会社竹内農場

《目次》

１．組織の概要　2ページ

2. 環境経営方針　3ページ

3. 環境経営目標　4ページ

4. 環境経営計画　5ページ

5. 実施体制　6ページ

6. 環境経営目標実績結果と評価　7ページ

7. 環境経営計画の取組結果とその評価　8ページ

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画　9ページ

9. 環境関連法規の遵守状況の確認及びその評価　10ページ

10. 代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示　11ページ

【1. 組織の概要 】

□取組の対象組織・活動

1、組織の概要

（1）名称及び代表者

・株式会社竹内農場

・代表取締役　竹内一之

（2）所在地

・本社　　香川県丸亀市綾歌町栗熊東1739番地

・倉庫　　香川県丸亀市綾歌町栗熊東1740番地

・牛舎　　香川県丸亀市綾歌町栗熊東1909-1番地

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

・環境管理責任者　竹内一之

・連絡担当者　　竹内一之

・TEL　　0877－86－2591

（4）事業内容

・農畜産物の生産、販売業、人材育成サービス

（5）事業の規模

・売上高(出来高)　96百万円／2022年度

・生産量　　キャベツ1020t、肉牛　50頭

・従業員　　9人

・延べ面積　　事務所　30㎡、倉庫1000㎡、牛舎1000㎡

（6）事業年度

・8月～7月

○認証・登録の対象範囲

登録事業所

株式会社竹内農場　　本社、倉庫、牛舎

事業内容

・農畜産物の生産、販売業、人材育成サービス

取組期間

・2022年8月～2023年7月

関連事業所

なし

株式会社竹内農場

2、環 境　経　営 方 針

基本理念

私たちは「天地自然に感謝し、農業の力で物心共に豊かな未来を創ります」の経営理念の基、事業を営んでおります。あたりまえにある自然を貴重で限りある資源と捉え、感謝し向き合うことで、わたしたち自身、子どもたち、地域、そして農業の未来が明るく豊かな物であるよう、本業である農業を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

行動指針

１．具体的に次の項目に取り組みます。

①ガソリン、軽油の削減に取り組みます。

②廃棄物の削減とリサイクルの強化に取り組みます。

③豊かな森づくりのための植林活動に取り組みます。

④化学物質使用量の適正管理を行います。

⑤たい肥、緑肥などの有機物の活用により、化学肥料の削減に努めます。

⑥水の使用量削減に取り組みます。

２．環境関連法規・条例・規則を遵守することを遵守します。

環境経営方針は、全ての従業員に周知し、継続的改善に取り組みます。

制定日： 2019年8月1日
改定日： 2023年4月1日

代表取締役　竹内　一之

【3、環境経営目標】

○中・長期目的・目標

目的	単位	目　　標			
		基準年(2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素の削減　＊1	kg-CO2	40,405	40,001	39,601	39,205
・電気使用量削減	kWh	13,828	13,690	13,553	13,417
・ガソリン使用量削減	L	6,054	5,993	5,934	5,874
・軽油使用量削減	L	6,864	6,795	6,727	6,660
廃棄物排出量削減	kg	408	404	400	396
水使用量削減	m3	567	561	556	550
農業における環境保全 *2	kg	36,760	36,392	36,028	35,668

■目標設定：3年間で基準年値に対して3%の削減を目指す

＊1. 電力のＣＯ2 発生量については、

環境省公表四国電力2017年実績調整後排出係数0.535（kg－CO2／kWh）を使用した。

＊2. 農業における環境保全として有機物の活用により、化学肥料の削減に取り組む。

■・PRTR法に該当する薬剤（化学物質）として除草剤が該当するため、適正管理を行う。

○今年度は、2022年度に取組む。

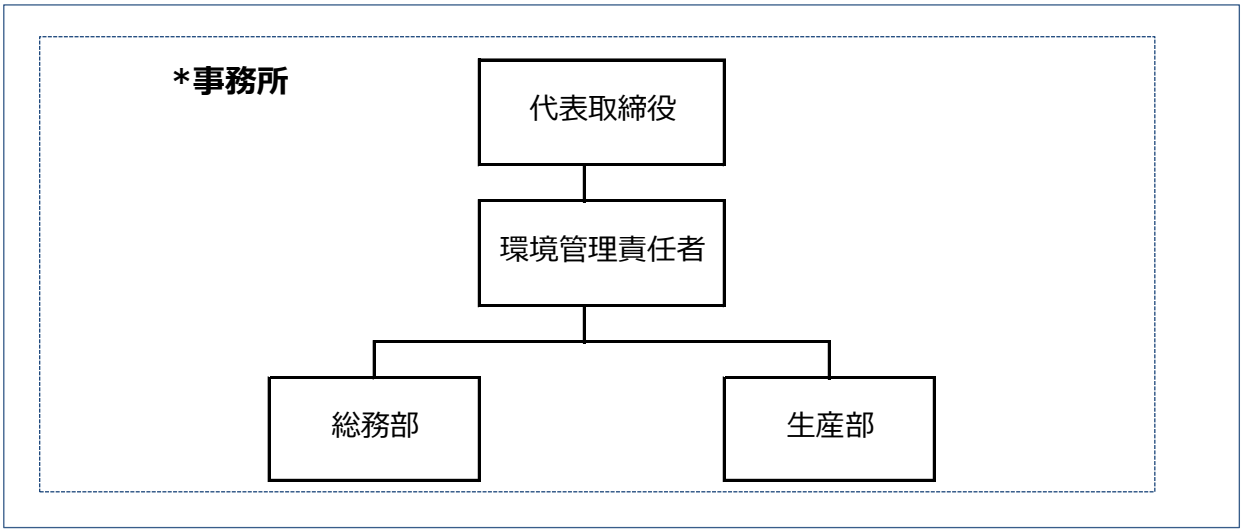
【４、環境経営計画】

具体的な取組み計画

・取組期間　2022年　8月　～　2023年7月

		具体的実施項目
二酸化炭素排出量削減	電気使用量削減	①LEDの推進 ②緑のカーテンの栽培 ③電気の消し忘れをなくす
	ガソリン・軽油使用量削減	①Web会議システムの活用 ②エコドライブの励行 ③タイヤ空気圧の点検 ④車両に無駄なものを載せない
廃棄物排出量削減	一般廃棄物削減	①コピーの裏面利用 ②ゴミの分別の徹底 ③段ボールの再利用
	産業廃棄物削減	①分別の徹底 ②フレコンバックの活用によるビニール削減
水使用量削減	節水	①井戸水の活用 ②ストップノズルの装着 ③ハウスでの遮光塗料使用
農業における環境保全	化学肥料の削減	①有機物（牛糞堆肥）の活用 ②有機物（緑肥）の活用 ③鶏糞堆肥の利用拡大
化学物質の適正管理を行う		①適正な在庫管理 ②使用基準の順守徹底

5、株式会社竹内農場　実施体制図



	役割・責任・権限
代表取締役	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実地に必要な、人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 ・環境経営目標、環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・部門の特定された緊急事態への対応マニュアルの承認 ・環境経営レポートを確認し、承認 ・環境関連法規等取りまとめ表の承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境経営目標、環境経営計画書を作成 ・全従業員に対する教育・訓練の実施 ・環境活動の取り組み結果を代表者に報告 ・環境経営レポートの作成 ・特定された緊急事態への対応マニュアル確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
総務担当者	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・環境活動の実績集計
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

【6、環境経営目標実績結果と評価】

取組期間　2022年　8月　～　2023年7月

目的	単位	基準年(2020年度)	目標	実績	評価
二酸化炭素の削減　＊1	kg-CO2	40,405	39,601	41,220 基準年比(102.0%)	×
・電気使用量削減	kWh	13,828	13,553	13,817 基準年比(99.9%)	×
・ガソリン使用量削減	L	6,054	5,934	6,440 基準年比(106.3%)	×
・軽油使用量削減	L	6,864	6,727	6,867 基準年比(100.0%)	×
廃棄物排出量削減	kg	408	400	396 基準年比(97.0%)	○
水使用量削減	m3	567	556	629 基準年比(110.9 %)	×
農業における環境保全＊2	kg	36,760	36,392	31,540 基準年比(85.8%)	○

＊1. 電力のCO2 発生量については、
環境省公表四国電力2017年実績調整後排出係数0.535(kg－CO2／kWh)を使用した。
＊2. 農業における環境保全として有機物の活用により、化学肥料の削減に取り組む。
・PRTR法に該当する薬剤(化学物質)として除草剤が該当するため、適正管理を行う。

↑
○:達成
×:未達

○コメント

二酸化炭素の削減	・電気については、冷蔵庫を極力使わず、即出荷するなど工夫したが、削減には至らなかった ・ガソリンはリアル開催の会議の増、事業拡大による車両の増加で削減できなかった ・軽油に関しては取引先の配送担当者の退職に伴い、自社配送が増えたため削減できなかった
廃棄物排出量の削減	・購入段ボールの輸送時に使われる包装ビニール等については、納品時に引取って頂いた ・一般廃棄物は、小学校の資源回収で回収して頂いた ・播種用のプラスチックトレイは洗浄、消毒することで、5回以上再利用し廃棄量を減らせている ・一部肥料をフレコンで納入して、ビニール類の廃棄物を減らせている
水使用量の削減	・新規ハウス施設の建設に伴い、ハウス内での水道利用が増えてしまったが、 井戸水の優先利用は行えている。 ・井戸水についてもストップノズルを着用し節水意識を持って活用している。 ・ハウスで遮熱塗料を使用することで、井戸水の潅水頻度を半分に減らせた
農業における環境保全	・緑肥作物や自社堆肥を活用して、化学肥料の削減を実現した ・鶏糞活用が通年等して実施で、大幅削減につながった。牛糞活用のために散布機を導入した ・緑肥作物を栽培することにより、二酸化炭素の吸収を行うと共に、雑草抑制に なりトラクターの使用回数を減らすことにもつなげられた

【7. 環境経営計画の取組結果とその評価】

取組期間　2022年　8月　～　2023年7月

		目標	8 - 11月	12 - 3月	4 - 7月	評価
二酸化炭素	電気使用量削減	①LEDの推進	○	―	―	○
		②緑のカーテンの栽培	○	―	○	○
		③電気の消し忘れをなくす	△	○	△	△
	ガソリン・軽油使用量削減	①Web会議システムの活用	○	○	○	○
		②エコドライブの励行	△	△	△	△
		③タイヤ空気圧の点検	○	×	×	△
		④車両に無駄なものを載せない	○	○	△	△
廃棄物排出量削減	一般廃棄物削減	①コピーの裏面利用	○	○	○	○
		②ゴミの分別の徹底	○	○	○	○
		③段ボールの再利用	○	○	○	○
	産業廃棄物削減	①分別の徹底	○	○	○	○
		②フレコンバックの活用によるビニール削減	―	―	○	○
水使用量	節水	①井戸水の活用	○	○	○	○
		②ストップノズルの装着	○	―	―	○
		②ハウスでの遮光塗料使用	○	―	―	○
農業における環境保全	化学肥料の削減	①有機物（堆肥）の活用	○	―	○	○
		②有機物（緑肥）の活用	○	―	―	○
		③鶏糞堆肥の活用	○	○	○	○
化学物質の適正管理		①適正な在庫管理	○	○	○	○
		②使用基準の順守徹底	○	○	○	○

○：計画通りできた　△：一部出来なかった　×：出来なかった

○評価に対するコメントと次年度の取組内容

目的	評価に対するコメント	次年度の取組内容
二酸化炭素	・LEDの推進については倉庫内の一部を変更した ・緑のカーテンについては葡萄棚を作り、実施できた ・電気の消し忘れは適宜注意喚起を行ったが、一部消し忘れが散見された ・WEB会議に関しては最大限活用できた ・エコドライブについては繁忙期など、実施不足の車両もあった ・タイヤの空気圧は定期点検項目に入れていたが、実施できていないケースが多かった。自社のコンプレッサー、空気圧系を使い実施体制を確立する ・車両に無駄なものを載せないことは習慣化しており実施できている	・継続して行う
廃棄物	・コピーの裏面利用についてはメモ等に活用した。両面印刷済みの用紙もアスパラガスの生産資材として活用した ・一般廃棄物、産業廃棄物共に、確実に分別することができている ・フレコンバックも用途を決めて活用でき、ビニール削減を行えた ・出荷先から段ボール回収し再利用する頻度を増やせた	・継続して行う
水使用量	・新たにストップノズルを設置した箇所が増えた ・水道と井戸が併設されている場所では井戸水を優先活用できていた ・ハウスに遮光塗料を使うことで井戸水の使用回数を減らすことは継続できている	・継続して行う
農業における環境保全	・自社の牛糞活用は、最大限おこなえている ・緑肥作物や堆肥に関しては、実施ができ、土づくりの成果が出てきているため、化学肥料の使用量は減ってきている。また、緑肥作物の栽培により二酸化炭素の吸収にも寄与できた ・試作で有機肥料(鶏糞）の活用が本格稼働し活用し大幅な科学肥料の削減につながった。さらに比率を高め化学利用削減に努める	・継続して行う
化学物質の適正管理	・使用基準の順守徹底をおこなえた ・適正な在庫管理を行えた	・継続して行う

【8.次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

○環境経営目標は、中・長期目的・目標の2023年度目標に取り組む

○環境経営計画

・取組期間 2023年 8月 ～ 2024年7月

		具体的実施項目
二酸化炭素排出量削減	電気使用量削減	①LEDの推進 ②緑のカーテンの栽培 ③電気の消し忘れをなくす
	ガソリン・軽油使用量削減	①Web会議システムの活用 ②エコドライブの励行 ③タイヤ空気圧の点検 ④車両に無駄なものを載せない
廃棄物排出量削減	一般廃棄物削減	①コピーの裏面利用 ②ゴミの分別の徹底 ③段ボールの再利用
	産業廃棄物削減	①分別の徹底 ②フレコンバックの活用によるビニール削減
水使用量削減	節水	①井戸水の活用 ②ストップノズルの装着 ③ハウスでの遮光塗料使用
農業における環境保全	化学肥料の削減	①有機物（堆肥）の活用 ②有機物（緑肥）の活用 ③有機肥料（鶏糞）の更なる利用拡大
化学物質の適正管理を行う		①適正な在庫管理 ②使用基準の順守徹底

【9、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果】

NO	法令名	チェック項目	条文No	条文タイトル
1	香川県環境基本条例	事業活動を行うに当たっては、公害の防止そのほかの環境への負荷の低減または自然環境の適切な保全のために必要雄な措置を講じなければならない。また、県が実施する環境の保全に関する施策に協力する責任を有する	第5条	事業者の責務
2	香川県生活環境の保全に関する条例	地球温暖化防止の理解を深め、自動車によるCO_2の排出を抑制するためのエコ運転を励行する。	第90条	事業者における温室効果ガスの排出抑制等
3	同上	事業所にて発生する廃棄物の減少に努め資源の有効活用を図るとともに、電気使用量を削減し省エネルギー活動を推進する	第92条	省資源および省エネルギーのための行動
4	同上	エネルギーの消費量の少ない電気機器等の使用及び電気機器等の効率的な使用に努める。	第93条	エネルギー消費量が少ない電機機器等の使用等
5	同上	環境マネジメントプログラム展開体制の組織が設置する。	第96条	普及啓発のための組織
6	同上	アイドリングストップの励行	第99条	自動車等の駐停車時の原動機の停止
7	丸亀市環境基本条例	事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を行うに当たっては、これに伴って生ずるばい煙、汚水、廃棄物の処理その他の公害を防止し、または自然環境を適正に保全するために必要な措置を講じなければならない。 2　前項に定めるもののほか、事業者は基本理念にのっとり、その事業活動に関し、これに伴う環境への負荷の低減その他の快適な環境の保全及び創造に自ら積極的に努めるとともに、市が実施する快適な環境の保全及び創造に関する施策に協力しなければならない	第5条	事業者の責務
8	廃棄物処理法	産業廃棄物の委託処理(委託先の許可確認) 運搬・処分業者との委託契約(委託契約の締結・5年間保存) マニフェストの交付と期間内処理の確認(マニフェスト管理・5年間保存)		事業者の責任
9	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	業務用エアコンの適正管理(簡易点検)を行う		事業者の責任
10	浄化槽法	浄化槽設置の届け出を行い、保守点検及び清掃の実施、並びに指定検査機関における水質に関する検査を実施する。		事業者の責務
11	グリーン購入法	出来る限り環境物品等を選択する	第5条	事業者の責任
12	土壌汚染防止法	(農用地の土壌汚染防止等に関する法津) 農用地の土壌の特定有害物質による汚染及び除去並びにその汚染にかかわる農用地の利用の合理化を図るため必要な措置を講ずる		事業者の責任
13	PRTR法	特定化学物質の適正管理		事業者の責任

該当している法律は遵守しております。関係当局からの違反等の指摘も過去3年間ありません

【10、代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示】

○全体の取組状況の評価

環境経営目標として二酸化炭素削減、ガソリン、軽油、廃棄物量の削減、そして、農業における環境保全として化学肥料の使用量の削減について目標を掲げました。

電気使用については消し忘れをなくす取組やLED化の他、収穫した商品を即時出荷することで業務用冷蔵庫の使用頻度を減らすよう意識しましたが、削減には至りませんでした。

ガソリンの使用量の削減に関してはアイドリングストップ、エコドライブの励行、タイヤ空気圧の点検を実施しました。特に空気圧の点検に関しては出来ていない車両が目立った。自社のコンプレッサー活用し、空気圧力計を新調し、車両チェックシートの必須項目として運用していきます。

軽油の使用量に関してはトラクターのオイル交換やエレメント交換、空気圧のチェック、エアクリーナーの清掃などを定期的に行い、燃費の向上を図りました。しかし、耕作面積拡大、自社配送先の増加により達成できませんでした。

廃棄物削減に関してはコピー用紙の裏面利用等、資源ゴミの分別を徹底することは出来ました。一部肥料をビニール個包装から400キロのフレコンバックへの変更を継続し、産業廃棄物を減らせることができました。また、使用済みの肥料袋を近隣農家の梱包資材として譲ることで一部を削減できました。段ボールは自社配送が増えた先の段ボールを回収し再利用することで取引先の廃棄物削減も大幅に増やすことが出来ました。

組織本来の取組みにおいても自社堆肥の活用や緑肥の活用面積を拡大して取り組めみました。また、土壌分析を強化することにより、土壌の状態を把握し、肥料の無駄をなくしました。鶏糞の活用については試験結果が良好だったため、通年で活用し、化学肥料の大幅削減に大きく寄与することができました。また、化学肥料を鶏糞に変えることで生産価格の大幅削減になり、経営面でも大きなメリットとなりました。

このような経営的な数値的メリットを社内でさらに共有し、環境経営目標の達成に臨むことが大切だと感じます。

○次年度の取り組み

環境経営方針と実施体制は継続する。環境経営目標は2020年を基準年として2023年度に取り組むが、次の中長期目標では2022年度、2023年度の実績を基に新たな中長期目標を設定する。環境経営計画は2022年度と同様の内容を継続して取り組みます。

上記、環境経営目標並びに活動計画の継続を行うと共に、月ごとのミーティングにおいて反省を行います。これまで目標に掲げながら実施不十分な、車両の空気圧の点検などは、社内で実施している『小さな改善提案50プロジェクト』に組み入れて実施に移します。また、同プロジェクトへの参加者を増やし、業務効率向上と環境経営目標の達成を目指します。
また、詳細な土壌分析も継続し、さらなる化学肥料の削減、農薬の削減に取り組みます。
また、自社での各種削減の取組などを業界に広げるため、積極的な視察受け入れを行い、業界全体としての課題解決を促進するための一助とします。

2023年10月31日

代表取締役　竹内一之